

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	①-8	実施計画番号	52	事業開始年度	平成27年度
事務事業名	三本木中学校の改築			事業終了年度	平成31年度
担当課名	教育総務課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	三本木中学校は築後45年以上が経過し老朽化が著しいことに加え、校舎及び屋内運動場のIs値(構造耐震指標)が文部科学省の基準である0.7を下回っていることから耐震改修又は改築が必要となっていた。築年数が他の学校と比べて多いこと、また、学校の施設・設備が全般的に老朽化していることから、三本木中学校は改修でなく全面改築とすることとなった。				
事務事業の目的	改築により生徒の安全確保と教育環境の向上を図る。				
実施状況	平成26年度に改築の基本方針を定め、平成27年に①基本計画の策定、②基本設計、③関連する諸調査、測量等の実施、を行った。 今後の予定としては、平成28年度に実施設計、平成29年度から31年度に工事実施し、31年度の竣工を予定している。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		2	2
	活動日数(日)		100	120
	人件費(千円)	0	7,200	8,640
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		0	39,739	79,767

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		改築に関する懇談会の実施			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回		3	
	活動指標名②		改築に関するアンケートの実施			
成果指標	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回		2	
	成果指標名①		改築に関する基本計画の策定			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標			式	目標値	計画策定	
			式	実績値	計画策定	
			式	達成度(%)	100%	
	成果指標名②		改築に関する基本設計の完成			
成果指標	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			式	目標値	基本設計完成	
			式	実績値	基本設計完成	
			式	達成度(%)	100%	

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学校施設の整備は、学校の設置者として当然の責務である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	学校施設の整備は、学校の設置者として当然の責務である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
学校施設の整備は、学校の設置者として当然の責務である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業は順調に進捗しており、事業完了年度までに計画的に事業を実施する。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	事業は順調に進捗しており、事業完了年度までに計画的に事業を実施する。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	事業は順調に進捗しており、事業完了年度までに計画的に事業を実施する。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学校施設の必要な機能や設備について、設計段階において十分検討していく必要がある。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	学校施設の必要な機能や設備について、設計段階において十分検討していく必要がある。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	学校施設の必要な機能や設備について、設計段階において十分検討していく必要がある。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">本事業を実施することにより、生徒及び教職員並びに学校利用者等に及ぼす危険性や不便を解消することができ、受益の偏りを是正することができる。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	本事業を実施することにより、生徒及び教職員並びに学校利用者等に及ぼす危険性や不便を解消することができ、受益の偏りを是正することができる。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
本事業を実施することにより、生徒及び教職員並びに学校利用者等に及ぼす危険性や不便を解消することができ、受益の偏りを是正することができる。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
<b>現在の適性</b>					20 / 20	<b>改善の余地</b>	0 / 20			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

三本木中学校は築後45年以上経過し老朽化が著しいことから、改築に向けて業務を進めている。生徒の安全のために今後も計画的に事業を遂行していく必要がある。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

平成28年度は実施設計、平成29年度から工事を行うことにより、生徒の安全の保持とよりよい環境づくりによる学習効果の向上が期待される。